

# 地域偏在解消へ育成事業

# 石川県 病院薬剤師の定着を目指す



石川県健康福祉部長の永松聰一郎氏（右から2人目）、  
石川県薬剤師会会长の中森氏（左から2人目）、同副会  
長の崔氏（同1人目）

16日の県議会で地域連携薬剤師確保対策事業が承認され、実施が決まった。23年度早期に、事業に参加したい基幹病院と地域病院を募集。その中から基幹病院と地域病院を一対一でマッチングして組み合わせ、どの認定・専門薬剤師資格を対象に、両院がどのように協力して育成するのかを決める。その上で、同プログラムで働きたい薬剤師を募集し、24年度から実際に勤務を開始してもらう計画だ。

単年度事業で終わらず、複数年かけて段階的に薬剤師確保を進める予定。5年間で20人程度の確保を想定している。当初は、病院薬剤師の確保に難渋しているが、能登エリアでの偏在解消によるモードルを活用する。

基幹病院と地域病院の組み合わせごとに、就業条件、費用負担、育成方法などを個別に調整して決め

奨学金返済支援240万円

石川県は20023年度から石川県薬剤師会等と連携して病院薬剤師の地域偏在解消のモデルづくりに取り組む。県内の基幹病院と地域病院が協力して各種認定・専門薬剤師資格を取得可能な育成プログラムを個別に構築。新卒等の薬剤師に両病院を行き来しながら主に6年間働いてもら

い、能登アリーナを中心に地域病院への定着を目指すもの。国の地域医療介護総合確保基金を財源に薬剤師の奨学金返済を支援する仕組みも設ける。地域医療に関わりながら資格を取得でき、奨学金の返済支援も受けられる魅力的なプログラムで薬剤師を呼び込みたい考えだ。

# 華事日報

月水金発行  
**薬事日報社**

**東京本社** 〒101-8648  
東京都千代田区神田と泉町1  
☎ (03) 3862-2141  
FAX (03) 5821-8757  
**大阪支社** 〒541-0045  
大阪市中央区道修町2-1-10  
☎ (06) 6203-4191  
FAX (06) 6233-3681  
購 読 料 半年19,764円  
(税込) 1年36,234円

きょうの紙面

- 実習期間設定で賛否  
6者懇…………[2]  
コロナ検査不正を非難  
山本日薬会長…[2]  
施設薬局7割依頼なし  
無菌製剤処理…[6]  
CRO事業に本格参入  
富士フイルム…[7]

本号8ページ

る。基幹病院で雇用し地域病院に出向する形や、その反対もあり得る。基幹病院と地域病院で一人ずつ確保し、相互に出向することも想定。基本的には扶養料等は出向先の病院が支払うことになる。基幹病院で初期研修を受けた後、地域病院に出向いて幅広い視野を獲得し、再び基幹病院で働くなど、各ケースに応じ

れる。意欲的な薬剤師の応募を促し、期間中に目標を持つて働いてもらうために資格取得を要件に加えた。既卒者の応募も可能だが、新卒での応募が中心になる見込み。

奨学生金返済のため病院で就職を敬遠する傾向が強まっている。資格取得が見込める環境整備と奨学生金返済支援をセットで行うことで薬剤師を呼び込み、地域偏在を解消するモデルを構築したいとして今回の事業が立ち上がった。

で薬剤師を派遣。薬剤部の勤務環境を改善し、新たに薬剤師を雇用することに成功した。

22年4月からは公立宇出津総合病院への薬剤師派出も開始している。地域病院で経験を積んだ薬剤師は、地域全体の医療を幅広い視野で考えられるようになるなど、双方にメリットがあるといふ。

石川県は、2002年度から石川県薬剤師会等と連携して病院薬剤師の地域偏在解消のモデルづくりに取り組む。県内の基幹病院と地域病院が協力して、各種認定・専門薬剤師資格を取得可能な育成プログラムを個別に構築。新卒等の薬剤師に両病院を行き来しながら主に6年間働いてもらいたい。能登エリアを中心地域病院への定着を目指すもの。国の地域医療介護総合確保基金を財源に薬剤師の奨学・返済を支援する仕組みも設ける。地域医療に関わりながら資格を取得でき、奨学生の返済支援も受けられる魅力的なプログラムで薬剤師を呼び込みたい考えだ。

# 奨学金返済支援240万円

院の自主的な取り組みを促し、薬剤師にとって働きがいいのある環境づくりを推進してもらう狙いもある。